

授業評価結果等

平成 30 年度 卒業時の学生によるカリキュラム評価報告

- アンケート実施日：平成 31 年 1 月 18 日
- アンケート配布数：103 部
- アンケート回収数（率）：80 部回収（回答率 77.7%）

I. カリキュラムおよびシラバスの構成

カリキュラム評価に関する項目で、「そう思う」及び「ある程度そう思う」を合わせて 80%を超えたものは、23 項目中 21 項目であった。特に、「教養科目群，専門科目群，看護学専門科目群のバランス」（98.8%）と「看護について理解が深まる学習内容が充実している」（98.8%）の二項目で最も評価が高かった。

一方、昨年度のアンケート結果で 80%未満であった「授業科目の配置」と「実習の開講時期」，そして「実習プログラムの充実」の全てにおいて，今年度は 80%を超える評価であった。また，「国外の看護実践に目を向ける学習内容」（78.8%）及び「国際的保健・医療活動に目を向ける学習内容」（76.3%）は，昨年度に引き続き 80%未満であったものの，両項目ともに昨年度に比べて 10～20%向上した。

さらに，シラバス（授業計画）の記載に関する項目で，内容のわかりやすさと成績評価基準の明示に関するものについては，共に 90%を超えており高い評価であった。なお，「学生の個性を伸ばす教育方法が工夫されている」が 81.3%であり，全体の項目の中で，若干ではあるが評価が低かった。

II. 教育に対する意見・要望

看護学部での教育に対する意見・要望について自由記載で尋ね，回答のあった 80 名中 11 名（14%）から自由記載の意見があった。記載内容は「カリキュラムの内容や進行に関する意見」，「授業内容および運営に関する意見」，「学生評価の仕方に関する意見」，「その他」に大別できた。なかでも「カリキュラムの内容や進行に関する意見」が最も多く，1，2 学年次生ではカリキュラム内容や進行に余裕があるが，3，4 学年次生では授業と実習が多いという意見があった。しかし，解剖学実習は高学年で行う方が理解できると思うという意見もあり，高学年の過密な授業スケジュールに対する意見とともに，学修進度に応じたカリキュラム編成を希望する意見があった。

「授業内容および運営に関する意見」で最も多かったものは，医学部の教員による授業内容が難しいという意見であった。他，演習形式の授業は実習で役に立ったが，グループワークが上手くできないなどの意見があった。一方，授業内容に，教員自身の経験を取り上げる事で具体的に医療現場の状況を理解でき，看護に関心をもつことができたという意見もあった。

「学生評価の仕方に関する意見」として，成績評価基準が不明確な科目があったという意見や，「その他」として，講義を行っている段階で苦手意識を持っている学生に対して補講があるとよいという意見があった。

Ⅲ. ディプロマ・ポリシーの達成

9つすべてのディプロマポリシーの達成について、「そう思う」及び「ある程度そう思う」を合わせて90%以上であった。「そう思わない」はすべてのディプロマポリシーで0名であり、概ねディプロマポリシーを達成していると自己評価していると考えられる。「そう思う」が最も多かったディプロマポリシーは、「4. 看護専門職者として倫理的に思考することができる」と「9. 看護専門職者として対象となる人々と共に健康と幸福を追求し人間的に成長しようとする態度を示すことができる」で、52名(65.0%)であった。「そう思う」が50%に達しなかったディプロマポリシーは、「3. 看護専門職者として科学的、明晰かつ批判的・発展的・論理的に思考することができる」の34名(42.5%)と「6. 看護専門職者として必要な基礎的な看護実践能力を身につけている」の38名(47.5%)であり、論理的思考及び看護実践能力に関するさらなる教育の強化が課題であると考えられる。

Ⅳ. 自律性

文献にしたがい、因子ごとに項目を並べ替えた。

自己決定に関する項目では、「あてはまる」及び「少しあてはまる」が最も多かった項目は、「10. 自分で決めたことには、責任を持つようと思っている」の67名(83.8%)であった。次いで、「あてはまる」及び「少しあてはまる」を合わせて70%以上であった項目は、「9. 自分のことは自分で決めたいと思う」の61名(76.3%)、「13. 自分で決めたことをやる方が、やる気がでる」の61名(76.3%)、「16. 自分が興味を持ったことは、一生懸命やることができる」の61名(76.3%)であった。反転項目である、「20. 大事なことは、だれか他の人に決めてもらいたいと思う」は「あてはまらない」と「あまりあてはまらない」を合わせて44名(55%)であった。

「1. まわりから反対されても、自分がやりたいことをしたいと思う」は「あてはまる」及び「少しあてはまる」を合わせて40名(50%)であり、独立に関する項目の「17. 一人で決められないときには、誰かの意見が聞きたくなる」の69名(86.3%)や余剰項目の「7. 他人の意見や流行を取り入れることが多い」の47名(58.8%)からも、物事を決定する時には他人の意見を聞き、最終的には自己決定していることがうかがえた。

独立に関する項目では、「8. 他人の言うことがたとえ正しくても、反論したくなる」が「あてはまらない」と「あまりあてはまらない」を合わせて51名(63.8%)であり、余剰項目の「4. 自分でいいと思うならば、他人の意見は気にしない」の55名(68.8%)からも、他人の意見を聞くようにしていることがうかがえた。

文献) 安藤史高(2005): 大学コミットメントと自律性欲求・学修動機づけとの関連, 一宮女子短期大学紀要第44集, 91-99.

Ⅴ. 学生生活のサポート

16項目中、13項目で「そう思う」及び「ある程度そう思う」を合わせて80%以上であった。中でも、学習環境の整備については、講義室、実習室、学生ホール、図書館、医心館とも、「そう思う」及び「ある程度そう思う」を合わせて90%以上であった。「そう思う」が最も多かったのは、「14. 国家試験対策は役立った」の53名(66.3%)であり、次いで「5. 国家試験対策は整っていた」の45名(56.3%)であった。学生生活のサポートについては、現在の体制整備で概ね良好であると考えられるが、個別の案件に対応していくことは引き続き継続する必要があると考えられる。

VI. 看護学部での学生生活の満足度

満足度について回答があったのは71名であり、「80～89%」が最も多く27名(38.0%)であった。「50%」とする回答が最低値であり、「100%」とする回答が9名(12.7%)であった。満足度の理由としては、低いパーセンテージを示した回答中にも肯定的な理由が含まれていたり、高いパーセンテージを示した回答中に否定的な理由が含まれていたりさまざまな理由であった。

満足度の理由としては、大きく分けて、学修内容、学修の姿勢・態度、学修環境、実習、学生生活、部活動、学生生活を通しての成長、国家試験対策、就職支援体制、事務職員の対応、教員の対応の11項目に分類された。

学生生活に関して友人関係を通しての肯定的な理由や学生生活を通しての自身の成長に関する理由が多く、また学修内容および実習に関する学びの深まりを理由とするものが多かった。しかしながら、少数ではあるが「学生生活がよかった」とする理由や「看護過程の展開に自信がないまま卒業となった」という理由もあった。その他、就職支援体制に不備を感じる理由や、教員の対応として、教員と良好な関係を築けたことを理由とするものと、アドバイザーも含め教員との関係性が悪かったことを理由とするものがあつた。今後、学生の充実した学生生活をサポートするためには、就職支援体制やアドバイザー制度も含め教員の学生対応について検討することが課題であると考えられる。

VII. 学生生活のサポートに対する意見・要望

学生からの学生生活のサポートに対する意見・要望は大きく分けて、学修内容、学修環境、実習、学生生活、就職支援体制、国家試験対策、教員の対応(アドバイザー制度も含む)の7項目に分類された。

学修内容に関しては、バランスよく授業を組んでほしい、学修環境については、空調やロッカールーム、トイレの環境などハード面で改善の要望があつた。また、大学からの連絡について、余裕をもって連絡が欲しいという意見があつた。学生生活については、キャンドルセレモニーについての要望や食堂についての要望があつた。就職支援体制については保健師の就職に関するサポートが欲しい、外部の病院を受ける学生のために面接対策や練習が不十分だという意見があり、今後検討の余地があると考えられる。国試対策については、回数を増やしてほしいという要望があつたが、単純に回数を増やすことを検討するだけでなく、より効果的に行うためにどのようにサポートを行っていくかを含めて検討することが課題である。教員の対応については、アドバイザーから就職支援を受けられてよかったとする意見もあつたが、アドバイザーとの連絡がうまく取れなかった、教員によって成績返却やアドバイザー会を行わないといった意見もあつた。中には、アドバイザー教員との関係性が良好でなく苦痛であつたとする意見もあつたことから、アドバイザーの役割の再検討や学生が不平等感を感じない対応が求められると考えられる。

まとめ

カリキュラムおよび学生生活に関して、全体的に高い評価であつた。一部、科目配置のバランス、学習環境、就職支援体制、アドバイザー制度など、改善の要望があつたことに対して、引き続き対応していく必要がある。